



世田谷区誌研究会 会 報

令和7年2月号

NO47

編集人 野岸敏雄
天海敏彦

連絡先: kushiken0817@yahoo.co.jp

ホームページ: <https://setagaya-kushiken.jimdofree.com/>

寒さが厳しい中でも、日ごとに春の兆しを感じられるようになってきました。皆様、いかがお過ごしでしょうか。先月1月15日・16日には、東京都無形文化遺産でもある伝統行事「世田谷ボロ市」が開催されました。当日は天候にも恵まれ、多くの方々が訪れ、会場は大いに賑わいを見せました。この模様は新聞やラジオでも取り上げられ、外国人の姿も報道されていました。

2月には、都内でも有数の梅の花が見られる「羽根木公園梅まつり」が2月8日から3月4日まで開催されます。羽根木公園は、かつて六郎次という鍛冶屋が住んでいたことから「六郎次山」と呼ばれていました。また、大正時代末期には敷地の一部が根津財閥の所有であったことから「根津山」とも呼ばれるようになり、土地の人々には今なお「根津山」、あるいは「六郎次山」として親しまれています。全体が小高い丘で南斜面には笹が生い茂っており、戦争中には防空壕もありました。

東京都は昭和31年にこの地を公園として開設し、世田谷村大字世田谷字羽根木の飛び地であったことから「羽根木公園」と名付けました。総面積は24,000坪です。その後、昭和40年に公園は世田谷区に移管されました。昭和42年には、世田谷区議会議員に当選した55名の方々によって55本の梅の記念植樹が行われました。さらに、昭和46年の東京都100周年記念で230本、翌年の世田谷区制40周年で100本の記念植樹が行われ、現在では紅梅270本、白梅380本の計650本が見られる都内屈指の観梅の名所となっています。

参考までに、都内の梅の名所として

- ・ 湯島天満宮: 約20種、約300本
- ・ 小石川後樂園: 約40種、約150本
- ・ 亀戸天神社: 約300本
- ・ 池上梅園: 約30種、約370本

ちなみに水戸偕楽園の梅の本数は3000本

梅林案内

梅林保護のため、ロープや柵えだみの内側には入らないでください。
白加賀は園内で本数が一番多く、梅林全体で見ることが出来ます。



さて、令和6年度の第8回目の講演会は、

2月20日(木)開場 1時 講演1時15分～3時15分

会場 ひだまり会館 第六会議室(3階)

「江戸時代 最後のプロジェクト

品川お台場」

講師 柘植信行氏



嘉永6年7月(1853)にペリー提督率いる黒船が来航したことを受けて、幕府(老中阿部正弘)は海防の強化が急務と江戸を護るため江戸湾の入口の品川沖に防御施設として1853年8月に開始され1854年4月までの8ヶ月で第一から第三台場までつくられた。埋立ての土砂は高輪・御殿山、泉岳寺の山を切り崩した。